

官令

東京府乙第廿八號
本日ヨリ東京控訴裁判所ニ於テ第二期東京重罪裁判所開
應ノ趣向所ヨリ通知有之候條此旨告示候事
明治十六年四月二日 東京府知事芳川顯正

諸選伺公報

内務省乙第廿三號
府縣 (東京府ヲ除ク)
遺失物等公費ニ係ル金類扇方之義自今一週年度分限額ノ
明細書相添ヘ毎年八月三十一日限届出ベシ此旨相達候事
明治十六年四月一日 内務卿山田顯義

叙任賞勳

四月二日分 遠山 友善
叙任五位 正三位 西洞院信堅
叙任二位 少教正 磯部 最信
叙任一位 補少教正 石原 僧宜
叙任一位 補少教正 大講義 安國 清

時事新報

天下太平如何シテ得ベキヤ 第五
當局ノ政事家ト民間ノ政事家ト相容セザルハ果シテ國家
ノ長計ニ非ズトノ理由明白ナラハ老政事家ハ一國ノ公ノ

茂ノ法ヲ誤ラザル政治社會ノ古木モ亦タ常ニ日光ヲ遮
ラズテ新木ニ與フルニ長茂ノ餘地ヲ以テ新古共ニ鬱
蒼ノ色ヲ呈スルコト實ニ天下ノ美觀ナラズヤ若シ夫レ民
間ノ少政事家ノ手足ヲ伸フルノ地ナクシテ其狀殆ント牀
下ノ箱ニ異ナラザルハハコノ箱ハ其後害ノ志氣ヲ洩ラス
所ナク或ハ牀ヲ破テ其頭角ヲ露ハスノ日モアラン是レ經
世家ノ深ク恐ル、所ナリ宋ノ蘇軾君ヲ養士ノ法ヲ論シテ

テ後レシト互ニ相競進スルハ實ニ一大困難事ナリコノ因
難ノ日ニ當テ内ニ區々ノ小爭ヲ開キ政府内ノ顧ノ患アリ
テ一意外敵ト競争スルヲ得ズ好機ノ眼前ヲ過シテアルモ
之ニ乘ズルノ大膽ナク蕭牆ノ混雜ニ妨ケラレテ其運脚活
潑ナラザレバ世界文明ノ進歩ハ我レチ依テ遂ニ人後ニ
墮若シテ外國ノ鼻息ヲ仰グニ至ラン今日ハ國內ノ小榮
辱ヲ爭フノ時ニアラザルナリ、局部ノ利害ノヲメニ全而
ノ利害ニ犧牲ニスルノ時ニアラザルナリ、内國ノ改良モ
尚權ノヲメナリ其靜謐モ國權ノヲメナリ榮華財產及ビ生
死モ國權ノヲメニハ之ヲ顧ミルニ足ラス兄弟鬩於牆、外
防其侮トヘ正ニ今日ノ急務コシテ日本人民ハ日本全國ヲ
以テ日本以外ノ敵ト爭フノ覺悟ナカルベカラザルナリ夫
レ虎狼後ニ立ツルハ猶大ノ前ニ横ハルヲ問ハズ今日ハ國
外ノ虎狼狀ヤトシテ隙ヲ伺フノ秋ナレバ復テ國內ノ猶大
ヲ顧ミルニ遠アル可ク下目ノ急務ハ人辭ノ授與ノ學者
農工商ニ及ホシテ政心ヲ肅シテ殖産興業發明工ノ域ニ
移テ一方ニハ政事家ノ忠誠ヲ其軌範トシテ防キ、方ニ
富員ノ増進ヲ促シテ利益ヲ謀リ、老少ノ政事家ヲ協和シ
テ治國會ニ新陳ノ元素ヲ混和シ老少交送ノ際ニ諷諭ノ
政變ヲ生セシメザルコト、今日ニ當テ内國ノ治安ヲ保テ
政府内ノ顧ノ患ヲシメテ海外ノ大敵ト爭ハシ
メズバ文明ノ活劇場ニ先鞭ヲ着ケルニトテ得ザルベ
ク頼山陽君テ蘇東坡ヲ評シテ曰ク東坡胸中常ニ天下ノ二
字アリト、醒睡タリ世上小體ノ人、區々ノ得失ヲ齒牙ニ掛
ケテ大事ノ前ノ小事ヲ忘ル、知ツズ、日本國民クラン、
モハハ胸中ニ天下ノ二字ヲ銘シ日本全國ノ利害ヲ標準トシ
其利害ノヲメニ運動セシメ我輩ノ希望ヲ己マサル所ナ
リ (畢)

雜報

○京都泉涌寺 同寺再建の儀が就て、富小路侍從の初め
宮内省の官吏数名該地へ出張し垣々工事着手せらるゝ
由あるの頃日傳聞する所依れば同地往宮内省御館を其
儘同寺へ移さる事を決せられたりと云
○建築費 容儀が永田町へ新築中なる有栖川親王は新御
邸ハ其費用三十万圓の概算をとしが其後種々御模替あり
りしに付該費用あての功功費束なきを以て猶増額の義を
宮内省へ請求ありしといふ
○徴兵令改正意見書 限て參事院に於て徴兵令改正草案
取調委員より同例の内滿五歳以下の長男及嗣子養子云
々其他數十件の儀に付此程内閣へ意見書を添へ差出され
しを以て各參議ももる會議を開かれしに未だ決議未運セ
ざるやと聞く
○英蘇條約 英公使バートン氏は英國と朝鮮との條約を
本國外務省へ送りしるに同省あての石日この條約と下院